大正百周年 祝 田野々物語

急峻な山々がいく重にも重なる地形が長い間人々の往来や歴史の流れ、行政の動きをはばんできた上山郷。
厳しくも豊かな自然環境の中で助け合い、自然と共生し、資源を活かして暮らしている。

銚子の川

次の100年へ！

エンコウとすもうをとった民話が多数残っている

桝原川はかって津野山川と呼ばれていた

四万十大正 鮎まつり

おめの川原

田野々トンネル

木の香る道づくり

上山郷は「上山山分（ぶん）」と呼ばれ、四方を山に囲まれ、山を越し、谷を渡り、川をまたぐ、とても交通の便がよくなかった。
1922年、窪川～宇和島間道路が県道となり
1979年、国道381号線になる。
1990年、窪川～田野々間二車線全面開通。

近年まで、大正・十和・西土佐の北幡三町村では深い交流があった。青年団対抗の北幡大会や北幡美術展なども開催されていた

黒川トンネル
里川を昔は黒川とよんでいた

1922年（大正11）はじめてバスが大正村を走った。十川～田野々間1日2往復。「ぜいたく自動車」と呼ばれていた。

義倉
江戸時代、上・下の田野々村庄屋屋敷には義倉が設置されていた。
毎年、粉を上納させて、凶作の際に農民たちを救う米を貯蔵していた。

無手無冠のあたりと忠霊塔のあたり

栗焼酎

四万十の鮎に大正の雑草

石鎚神社

上山城（田野々城・土居林城）跡

河内神社

江戸時代、このラインで上田野々村・下田野村に分割されていた。

田野々でいちばん早く咲く桜

無手無冠

民俗資料館（旧営林署）

長命地蔵

五松寺

こども園

かみず
上頭の渡し場
もっとも重要な往還の渡し場でおかみや一般の人々で混雑した。
→上舟戸 おかみ専用、下舟戸…一般のん「じだいじ」とした。（古橋台がみえるあたり）

渡場
上舟戸
下舟戸
大正橋

西本町
本町
役場
桜木神社
和田林城跡
中町
四万十高校
忠霊塔
東山
大正中学校
土佐大正駅
1974年3月1日予土線全線開通。2014年40周年。
森駅場
駅
四万十荘
新町
海津見神社
田野々小学校
きらら
七夕神社（南町）

遅越城跡
吾川
下田まで筏で材木を流して運んでいた。
クリーンセンター

縄文遺跡が発見されるなど早くからこの地で人々が定住して生活を営んでいた。
中世（1190年代）紀州から田那部一族が移住し、田野々を中心に開発。
長曽我部氏の時代には上山郷と呼ばれる。
地検帳には「田野々村」と記され津々羅川村とトトロサキ村の3小村からなるとある。
村域は上・下の田野々村の二村に分かれていた。
明治22年（1889）上山郷上分・下分の2ヶ村が合併し、東上山村。
大正3年（1914）1月1日、大正改元を機に元号を村名として「大正村」と改称。
昭和22年（1947）町制。
平成18年（2008）四万十町となる。
「田野々」の地名は消え、「大正」となる。
これからも万古不易。
ゆっくりと変わらぬ道を歩く。

熊野神代橋
熊野神社の鎮守の森の大木を目の前に見ることができる自然と一体となったすばらしい名橋。
車に気をつけて歩いてみたい。

大蛇伝説。

金鳳守の森
町中でありながら木霊を感じることができるパワースポット。ムササビも住んでいる。

竹内家住宅
約280年前の山村農家。中津川より移築

熊野神社
田野々を守り千年の歴史を伝える熊野社。
もとは道の下にあったが1890年に大水で流され1914年現在地へ。
8月1日と11月12日大祭

カワウソ

民家の住居
江戸時代、多くが掘建式の茅葺小屋ですべての家がひさしを許されなかった。
座敷に床板はなく、小竹をすのこに編んで並べ、わらや麦がらを敷いていた。
冬は寝つけない寒風が吹き、いろりに足をさし入れて寒さをしのいでいた。

田野々の大火
昭和23年8月6日（土）桝原川沿いにあった大正営林署修理工場から出火した。火は、おりからの強風にあおられて、10時間にわたり火然えひろがり、田野々の中心部を焼き尽くした。
190戸全焼、受災者1300人。
「田野々全滅」と伝えられた。
その後、復興をとげていく。

火の用心！

桜並木

荒瀬

町中は車も少ない。のんびり歩いて大正ロマンをみつけてみよう。

カワウソの生そくを心の中でひそかに願っているぼく。

田野々の町中は、中央に森駅場（高校周辺）を残し、太古には川が流れていた旧河道跡に平地が開けた地形。
「たのの」は段々のある段丘地「たなの」（棚野）がなまり変わった言葉。
また、上流にある桝原町の田野々から神の化身の大蛇が流れ着いたので同じ名前の田野々になったという説もある。

荷酷だった庶民の暮らし
土佐藩では財政がひっ迫しており、農民からより多くの税をとる重税や出役、細かな規則を強いていた。
衣類は自作の木綿か麻、フジの皮などからタタ布（たふ）を織っていた。
また、仙花紙を各家で漉いて、紙の布団や衣類、蚊帳として使っていた。
食物も米を納めても自由にならず、芋、キビ、タイモなどを少量の米とまぜて食べ、カシやナラの実も食糧として飢えをしのいでいた。
塩は佐賀や上り口の漁師のところへ、魚網を染めるヤマモモの皮などを担ぎ出し、交換していた。

舟渡し場
葛籠川と仁井田川の合流する少し下にあったが、急流、岩礁がタタ、川止めもタタかった。
大正9年、那道を延長してウロヂ～熊野神社を結ぶ路線で舟渡しを行っていた。
昭和13年沈下橋架設により廃止となる。

渡し船から沈下橋へ
沈下橋から抜水橋へ

天然記念物 大椎

東京崎苗圃園跡
大正営林署が苗木を育てるために、スギの種を採っていた精英樹の台スギ群

古民家門脇家住宅

郷土資料館

GS

東京公園
世界一の石の風車。大きい方が回ると雨になる。

河内神社

ヤイロチョウセンター

東京崎

四万十川
（仁井田川と呼ばれていた）

タイワンフウの紅葉（じょうろク原木にしていた）

葛籠川
一の又温泉
市又風景林（根上がり大将）

ナガリデ神社

道の駅 であいの里

リバーパーク キャンプ場

四万十ヒノキ集成材工場

交通安全観音様

GS

杉3峠へ

2014.3